

大正七年前後以降に於て本格的な獨占資本が確立された  
のであるが、斯かも獨占資本の發展は之の反面に於て勞  
働者階級の成長を促さずには置かなかつた。更にこの傾  
向は歐洲に於ける革命運動の昂揚に依つて影響されつ、  
この時期に於て我國の勞働運動は確立せられたと言ふこ  
とが出来た。即ち勞働運動は漸次組織的となり、勞働争  
議の件数は急激に増加し続け、遂に大正七八年には最高  
潮に達した。

他面、大戰の影響による我が經濟界の好況は、國民の  
購買力を増大せしめ、著しき物價の騰貴、殊に米價の高  
騰を惹き起した。斯かる物價の高騰は國民の生活を著し  
く困難ならしめ、遂にこれが直接の動機となつて大正七  
年には「米騒動」になつて、全国的に社會不安を激成する

に至つた。

斯くの如く、第一次世界大戰を契機として惹き起され  
た社會不安は、大正七年頃には既に爆發の危機を孕んで  
ゐた。このことは當然政治の關心の對象とならざるを得  
なかつた。そこで同年六月五日即ち米騒動勃發の二箇月  
前、政府は内務省に救濟事業調査會を設置した。このこ  
とに依つて、政府は兎角研究論議の域を脱しなかつた「  
社會政策」が喫緊の具体的問題であることを認め、社會  
状態の緊迫化によつて惹き起された社會問題に關する對  
策の樹立に備へたのであつた。政府は同調査會に對して  
社會政策的施設に關する諸問題を審議せしめたのであつ  
たが、就中當時最も重大化せんとしてゐた資本家對勞働  
者の抗爭問題に關しては、同年十二月末次内相より「資